

「枝幸郡枝幸町周辺の甲虫相」の訂正と補遺

大木 裕¹, 芳賀 馨²

1. 〒 225-0015 横浜市青葉区荏田北 2-17-13

2. 〒 330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町 1-16-1-804

要旨 筆者らは「枝幸郡枝幸町周辺の甲虫相その 1」(大木ほか 2022) および「枝幸郡枝幸町周辺の甲虫相その 2」(大木ほか 2023) によって枝幸町とその隣接地域から合計 61 科 733 種の甲虫を記録した。後日そのうち 5 種に同定誤りがあったことが判明したので、本報告でその訂正を行う。また、未同定であった標本の同定、新しい文献記録の発見等により枝幸町周辺の甲虫相に追加すべき種があるので、合わせて本報告で記録する。これにより枝幸町周辺から記録された甲虫は 61 科 746 種となる。

キーワード：甲虫相, 枝幸郡枝幸町周辺, 誤同定の訂正, 国内道特産種

1. 初めに

筆者らは、内藤準哉氏、松本忠之氏と共著で、本誌に「枝幸郡枝幸町周辺の甲虫相その 1」および「枝幸郡枝幸町周辺の甲虫相その 2」と題して、枝幸町とその隣接地域に生息する甲虫類(昆虫綱鞘翅目)の目録を発表した(大木ほか 2022, 大木ほか 2023)。2 編を総称して以下「前報」という。後日、前報で記録した種の中に 5 種の誤同定があったことが判明し、それらを早期に訂正することが必要となっている。一方、前報の発表後に、枝幸町周辺の甲虫類に関する複数の文献記録が発表または発見された。さらに、前報において種までの同定ができず目録に収録できなかった標本の一部について専門家の同定が得られ、または新しい文献の発表によって筆者ら自身で同定することが可能となった。これらの事情によって新たに枝幸町周辺のファウナに追加されるべき種がある。以上の事情を考慮し、前報の訂正と補遺を報告する。

2. 調査の方法

(既存標本の再同定)

前報の準備段階で筆者らが同定できなかった標本、前報の発表後に他の研究者から誤同定の可能性の指摘を受けた標本について、再同定を行った。再同定は原則として各分類群の専門家に依頼したが、同定の指針となる新しい文献が発表された分類群については、筆者ら自身が行った場合がある。

(文献記録の調査)

前報の発表後に発表されるか、前報の発表以前に発表されたもので新たに筆者らが入手した学会誌等から、枝幸町周辺で採集された甲虫類の記録を抽出した。

3. 調査の結果

誤同定・未同定標本の同定、新しい文献記録の発表・発見等によって新たに枝幸町周辺のファウナに加えられる甲虫の種の目録を、別表 1 に示した。別表 1 では、科毎に以下の 3 部構成で種

を配列している。

a. 誤同定の訂正

前報における同定が誤っていた以下の5種(文献記録が訂正されたものを含む)を削除し、再同定結果を示した。

(ガムシ科)(誤) *Sphaeridium scarabaeoides* Linnaeus エンマハバビロガムシ→(正) *Sphaeridium lunatum* Fabricius キタエンマハバビロガムシ

(コキノコムシ科)(誤) *Mycetophagus obsoletesignatus* Miyatake アシボソコキノコムシ→(正) *Mycetophagus hillerianus* Reitter ヒレルコキノコムシ

(カミキリモドキ科)(誤) *Nacerdes waterhousei* (Harold) アオカミキリモドキ→(正) *Nacerdes bicostata* (Lewis) ヤマアオカミキリモドキ

(ハムシ科)(誤) *Cassida japonica* Yasutomi ミドリカメノコハムシ→(正) *Cassida rubiginosa* (Müller) アオカメノコハムシ

(ハムシ科)(誤) *Sphaeroderma placidum* Harold ムネアカタマノミハムシ→(正) *Sphaeroderma balyi* Jacoby フキタマノミハムシ

b. 追加種

新しい文献記録の発表・発見、未同定標本の同定等によって新たに枝幸町周辺のファウナに加えられる種を示した。

c. 既記録種の追加記録等

前報において既に枝幸町周辺から記録されている種のうち、未同定標本の同定等によって記録が追加された種と、新しい文献記録が発表・発見された種を示した。新しい記録が、前報で記録がなかった植生帯からの記録である場合はその旨を注記した。

別表1に収録された種の族までの配列は、前報と同じく「神奈川県昆虫誌 2018. コウチュウ目」(平野ほか 2018)に、それ以下の配列は参考文献に記載した図鑑または属名・種名のアルファベット順による。

別表1 枝幸町周辺から記録された甲虫の目録(訂

正と補遺)

文献記録以外の標本の採集者名を、芳賀馨:(H)、大木裕:(O)と表記した。

文献記録以外の標本は、特記なき場合は筆者ら(専門家に同定依頼した標本は同定者)が保管している。

[1] HYDROPHILIDAE ガムシ科

a. 誤同定の訂正

1. (誤) *Sphaeridium scarabaeoides* Linnaeus エンマハバビロガムシ

[文献記録] 神威岬(中谷ほか 2006)

(正) 全データを削除

従来日本本土に生息する *Sphaeridium* 属の種は *S. scarabaeoides* 1種とされていたが、Suzumura (2020)によって同属の近似種 *S. lunatum* キタエンマハバビロガムシが北海道から発見された。中谷氏は、過去に自身が「北見神威岬」から記録した「エンマハバビロガムシ」の標本(1♂1♀)を再同定し、2個体ともキタエンマハバビロガムシであったと述べている(中谷 2023)。

b. 追加種

1. *Sphaeridium lunatum* Fabricius キタエンマハバビロガムシ

[文献記録] 神威岬(中谷 2023)

2. *Cercyon algarum* Sharp ヒメケシガムシ

[追加記録] 2exs., 神威岬, 16.VII.2019(H: 岩礁に堆積した海藻下); 1ex., 北見幌別川河口右岸, 29.VII.2018(H: 岩礁に堆積した海藻下); 1♂+2exs., 乙忠部 ニウシナイポ川河口左岸, 22.VII.2020(H: 砂浜の塵芥下)

3. *Cercyon aptus* Sharp コケシガムシ

[文献記録] 下幌別(Suzumura et al. 2022)

[追加記録] 4exs., 北見幌別川河口右岸, 28.VII.2018(H: 砂浜の塵芥下); 1ex., 北見幌別川河口右岸, 29.VII.2018(H: 岩礁に堆積した海藻下); 1ex., 乙忠部 ニウシナイポ川河口左岸, 22.VII.2020(H: 砂浜の塵芥下)

4. *Cercyon numerosus* Shatrovskiy エゾケシガムシ

[追加記録] 2♂, 神威岬, 16.VII.2019(H: 岩礁に堆積した海藻下); 16exs., 北見幌別川河口右岸,

28.VII.2018(H: 砂浜の塵芥下); 17exs., 北見幌別川河口右岸, 29.VII.2018(H: 岩礁に堆積した海藻下); 2♂ 2♀ +9exs., 乙忠部 ニウシナイボ川河口左岸, 22.VII.2020(H: 砂浜の塵芥下)

5. *Cercyon setulosus* Sharp ナガケシガムシ

[文献記録] 問牧 (Suzumura et al. 2022)

[追加記録] 25exs., 北見幌別川河口右岸, 28.VII.2018(H: 砂浜の塵芥下); 35exs., 北見幌別川河口右岸, 29.VII.2018(H: 岩礁に堆積した海藻下); 1♂ 1♀ +6exs., 乙忠部 ニウシナイボ川河口左岸, 22.VII.2020(H: 砂浜の塵芥下)

2~5の4種については、未同定であった筆者らの採集品を Suzumura et al. (2022) および Шатровский (1989) によって同定することができたので記録する。そのうち *C. aptus* と *C. setulosus* の2種は、前者の文献によって枝幸町内から既に記録されている。

c. 既記録種の追加記録等

1. *Cercyon dux* Sharp フチトリケシガムシ

[追加記録] 2♂ 2♀, 神威岬, 16.VII.2019(H: 岩礁に堆積した海藻下); 2♂ 2♀, 北見幌別川河口右岸, 28.VII.2018(H: 砂浜の塵芥下); 2♀, 北見幌別川河口右岸, 29.VII.2018(H: 岩礁に堆積した海藻下)

本種は大木ほか (2022) で文献記録を引用した種であるが、未同定であった筆者らの採集品を Suzumura et al. (2022) および Шатровский (1989) によって同定することができたので記録する。

[2] LEIODIDAE タマキノコムシ科

b. 追加種

1. *Leiodes irregularis* Portevin エトロフオオタマキノコムシ

[追加記録] 1ex., 歌登辺毛内 健康回復村の少し下流, 24-27.VII.2018(H: トドマツ等二次林縁の沢岸の衝突版トラップ)

上記の種については、未同定であった筆者らの採集品を Hoshina (2012) によって同定することができたので記録する。

[3] SCIRTIDAE マルハナノミ科 (*を付した個体

は吉富博之同定)

b. 追加種

1. *Contacyphon variabilis* (Thunberg) チビマルハナノミ

[追加記録] 1♂ (*), 北見幌別川河口 幌別橋上流右岸, 18.VII.2019(H: 湿地のアシ等のスィーピング); 1♀ (*), 音標川河口音標橋左岸, 18.VII.2019(H: ワンドの草本の踏み倒し)

上記の種については、未同定であった筆者らの採集品を吉富博之博士に同定していただいたので記録する。本種は海外では千島列島、ヨーロッパ、北アフリカ、中米、北米、ニュージーランドに分布し、国内では北海道東部のみから記録されていた、国内道特産種である (Yoshitomi 2005)。

c. 既記録種の追加記録等

1. *Scirtes japonicus* (Kiesenwetter) トビイロマルハナノミ

[追加記録] 1♂ (*), 北見幌別川河口 幌別橋上流右岸, 18.VII.2019(H: 湿地のアシ等のスィーピング)

本種は前報で記録された種であるが、上記の標本が新たに同定された。

2. *Nyholmia ainu* (Nakane) アイヌチビマルハナノミ

[追加記録] 1♂ (*), 加須美峠 EL. 約 710m, 19.VII.2020(H: ササ・ダケカンバ林縁の湿地のスィーピング); 1♀ (*), 北見幌別川河口 幌別橋上流右岸, 18.VII.2019(H: 湿地のアシ等のスィーピング)

本種は前報で記録された種であるが、上記の標本が新たに同定された。これにより本種が海岸にも生息していることが確認された。

3. *Contacyphon fuscomarginatus* (Nakane) キイロチビマルハナノミ

[追加記録] 2♂ (*), 加須美峠 EL. 約 710m, 19.VII.2020(H: ササ・ダケカンバ林縁の湿地のスィーピング); 1♂ (*), 北見幌別川河口 幌別橋直上流右岸, 15-18.VII.2019(H: アシ原の蛹粉アルコールピットトラップ); 1♀ (*), 北見幌別川河口 幌別橋上流右岸, 18.VII.2019(H: 湿地のアシ等のスィーピング)

本種は前報で記録された種であるが、上記の標本が新たに同定された。これにより本種が亜高山帯と海岸にも生息していることが確認された。

[4] ELMIDAE ヒメドロムシ科

b. 追加種

1. *Zaitzeviaria brevis* (Nomura) ヒメツヤドロムシ

[文献記録] 小頓別 (Hayashi & Yoshitomi 2015)

2. *Zaitzeviaria gotoi* (Nomura) ホソヒメツヤドロムシ

[文献記録] 小頓別 (Hayashi & Yoshitomi 2015)

3. *Zaitzeviaria ovata* (Nomura) マルヒメツヤドロムシ

[文献記録] 小頓別 (Hayashi & Yoshitomi 2015)

上記3種は、上記の文献記録が発表されたことにより、枝幸町周辺のファウナに追加された。いずれも1976年8月26日に故佐藤正孝博士によって採集された標本に基づく記録であり、標本は愛媛大学ミュージアムに保管されている。

[5] ELATERIDAE コメツキムシ科

c. 既記録種の追加記録等

1. *Hypolithus littoralis convexus* (Miwa) キベリマルヒサゴコメツキ

[文献記録] ウスタイベ (荒木 1995); 川尻 (荒木 1995)

本種は大木ほか (2022) で記録された種であるが、上記の文献記録を新たに見出した。荒木 (1995) は本種を青森県下北半島からも記録し、それまで「本州からの記録はなかった」と述べている。大木ほか (2023) ではこの文献を見落として、本種を国内道特産種に計上していた。後掲の集計表 (表-1) を修正する際には、本種を国内道特産種から除外した。

[6] NITIDURIDAE ケシキスイ科 (*を付した個体は久松定智同定)

b. 追加種

1. *Eपुरaea (Eपुरaea) melina* Erichson ニセヒゲブトヒラタケシキスイ

[追加記録] 1ex.(*)、オフタルマナイ川左岸 EL.240-320m, 27.VII.2018(H: 混交自然林縁のシモツケ類花上)

2. *Eपुरaea (Eपुरaea) pallescens* (Stephens) ウスモンアカヒラタケシキスイ

[追加記録] 1ex.(*)、オフタルマナイ川左岸 EL.240-320m, 27.VII.2018(H: 混交自然林縁のシモツケ類花上)

3. *Eपुरaea (Eपुरaea) rubronotata* Reitter ニセホソキヒラタケシキスイ

[追加記録] 1ex.(*)、オフタルマナイ川左岸 EL.240-320m, 27.VII.2018(H: 混交自然林縁のシモツケ類花上)

4. *Eपुरaea (Haptoncurina) paulula* Reitter マメヒラタケシキスイ

[追加記録] 4exs.(*)、ポロヌプリ東直登沢 EL.174-300m, 25.VII.2018(H: 混交自然林内 沢沿いのシモツケ類花上); 1ex.(*)、歌登パンケナイ川林道 EL.140-174m, 25.VII.2018(H: 混交自然林縁のシモツケ類花上); 2exs.(*)、オフタルマナイ川左岸 EL.240-320m, 27.VII.2018(H: 混交自然林縁のシモツケ類花上); 2exs.(*)、徳志別川下流左岸 EL.20-30m, 15.VII.2019(H: 広葉樹自然林縁のシモツケ類花上)

上記4種は、上記の標本を久松定智博士に同定していただいたことにより、枝幸町周辺のファウナに追加された。

c. 既記録種の追加記録等

1. *Eपुरaea (Micruria) bergeri* Sjöberg カクアシヒラタケシキスイ

[追加記録] 1ex.(*)、神威岬旧道山側, 28.VII.2018(H: 風衝草地のスイーピング); 1ex.(*)、歌登松垣町, 24.VII.2018(H: トドマツ等土場周囲のヤナギ等のスイーピング); 1ex.(*)、ポロヌプリ東直登沢 EL.174-300m, 25.VII.2018(H: 混交自然林内沢沿いのシモツケ類花上); 1ex.(*)、オフタルマナイ川左岸 EL.240-320m, 27.VII.2018(H: 混交自然林縁のシモツケ類花上); 2exs.(*)、オフタルマナイ川右岸 EL.200-240m, 27.VII.2018(H: 混交自然林縁のシモツケ類花上); 3exs.(*)、徳志別川下流左岸 EL.20-30m,

15.VII.2019(H: 広葉樹自然林縁のシモツケ類花上)

本種は前報で記録された種であるが、上記の標本が新たに同定された。これにより本種が海岸にも生息していることが確認された。

[7] MYCETOPHAGIDAE コキノコムシ科

a. 誤同定の訂正

1. (誤) *Mycetophagus obsoletesignatus* Miyatake
アシボソコキノコムシ

[文献記録] 辺毛内桜井の沢川 (大木ほか 2023); 美深町紋穂内びふか温泉 (大木ほか 2023)

(正) 全データを削除

柏崎昭氏からアシボソコキノコムシは北海道には記録がない種であるというご指摘をいただき、宮武 (1989) 等の文献と照合して再検討した結果、びふか温泉の個体はヒレルコキノコムシであること、辺毛内の記録は誤転記であることが判明した。

b. 追加種

1. *Mycetophagus hillerianus* Reitter ヒレルコキノコムシ

[追加記録] 1ex., 美深町紋穂内びふか温泉, 28.VII.2021(O)

[8] OEDEMERIDAE カミキリモドキ科 (*を付した個体は秋山秀雄同定)

1. (誤) *Nacерdes waterhousei* (Harold) アオカミキリモドキ (一部)

[文献記録] 神威岬 (大木ほか 2023); ウスタイベ (大木ほか 2023)

(正) 筆者らが採集した標本に基づく上記2地点のデータを削除

ヤマアオカミキリモドキはアオカミキリモドキの山地型「*Xanthochroa waterhousei* var. *bicostata* Lewis」として記載された種で、Švihla (1999) によって独立種に昇格した。芳賀は高井泰氏から誤同定の可能性をご指摘いただき、秋山 (2000) に掲載された両種の♂交尾器の図と標本を比較した。その結果、神威岬とウスタイベで採集し記録した「アオカミキリモドキ」はヤマアオカミキリモドキの誤同定であったと判断した。大木は、前

報で未記録であった「アオカミキリモドキ」の標本2個体を秋山秀雄氏に同定していただいた。その結果、それらの標本はヤマアオカミキリモドキおよびキクビカミキリモドキであることが判明した。

アオカミキリモドキは黒澤ほか編 (1985) 等の図鑑において北海道に分布するとされているが、秋山氏によれば、北海道で採集された真のアオカミキリモドキの標本を見たことがないという。このことから、大木ほか (2023) が文献記録として引用した神威岬 (中谷ほか 2006) とポロヌプリ山麓域 (合地ほか 1994) の「アオカミキリモドキ」もヤマアオカミキリモドキの誤同定である可能性が高いと思われるが、それらの標本を実見できていないので、現時点では文献記録として残しておくこととする。

b. 追加種

1. *Nacерdes bicostata* (Lewis) ヤマアオカミキリモドキ

[追加記録] 1♂, 神威岬, 16.VII.2019(H: シモツケ類花上); 6♂, ウスタイベ, 17.VII.2019(H: 広葉樹二次林縁のシモツケ類花上); 1ex.(*), ウスタイベ, 31.VII.2021(O)

前報で「アオカミキリモドキ」として記録した標本の他に、大木が採集したウスタイベ産の1個体が新たに同定された。

c. 既記録種の追加記録等

1. *Nacерdes atriceps* atriceps (Lewis) キクビカミキリモドキ

[追加記録] 1ex.(*), ウスタイベ, 31.VII.2021(O)
本種は前報で記録された種であるが、上記の標本が新たに同定された。

[9] CHRYSOMELIDAE ハムシ科

a. 誤同定の訂正

1. (誤) *Cassida japonica* Yasutomi ミドリカメノコハムシ

[文献記録] ポロヌプリ山麓域 (合地ほか 1994)

(正) 全データを削除

大木ほか (2023) において上記の文献記録を引用したが、同文献の昆虫関連部分の執筆者で

表 -1 枝幸町の植生帯・分布パターン別の甲虫の記録種数と構成比

分布パターン	全体	高山帯	亜高山帯	ブナクラス	海岸
本州以南共通種	656 (87.9%)	82 (82.0%)	79 (84.0%)	435 (89.9%)	348 (86.7%)
国内道特産種	83 (11.1%)	18 (18.0%)	14 (14.9%)	42 (8.7%)	52 (13.0%)
不明	7 (0.9%)	0 (0%)	1 (1.1%)	7 (1.4%)	1 (0.2%)
合計	746 (100%)	100 (100%)	94 (100%)	484 (100%)	401 (100%)
	総記録種数に 対する構成比	(13.4%)	(12.6%)	(64.9%)	(53.8%)

ある堀繁久氏から、上記の文献記録は *Cassida rubiginosa* (Müller) アオカメノコハムシの誤同定であるとの連絡(私信)をいただいた。アオカメノコハムシは筆者らも採集し大木ほか(2023)で記録しているので、記録種数が1種減となる。

2. (誤) *Sphaeroderma placidum* Harold ムネアカタマノミハムシ

[文献記録] 目梨泊無線山中腹(大木ほか2023); 美深町紋穂内びふか温泉(大木ほか2023)

(正) 全データを削除

滝沢春雄博士から誤同定の可能性をご指摘いただき、標本をお送りして同定していただいた結果、目梨泊無線山中腹および美深町紋穂内びふか温泉から記録された「ムネアカタマノミハムシ」はフキタマノミハムシの誤同定であったことが判明した。ムネアカタマノミハムシは林ほか編著(1984)等の図鑑において北海道に分布するとされているが、滝沢博士によれば、北海道で採集された真のムネアカタマノミハムシの標本を見たことがないという。

b. 追加種

1. *Sphaeroderma balyi* Jacoby フキタマノミハムシ

[追加記録] 1ex., 目梨泊無線山中腹, 17.VII.2019(H: 下草のスピーング); 1ex., 美深町紋穂内びふか温泉, 3.VII.2015(O)

4. 集計表の修正

修正後の集計表を表-1に示す。枝幸町周辺か

ら記録された甲虫は746種で、前報に対して13種の追加となった。ただし文献記録として残した「アオカミキリモドキ」の標本が確認されれば、それがヤマアオカミキリモドキと同定されて1種減となる可能性がある。国内道特産種は全体で83種で、前報と同数となった。これは3章に記載したとおり、チビマルハナノミが追加種として加わる一方で、キベリマルヒサゴコメツキが本州から記録されて国内道特産種から除外され、増減が相殺されたためである。その他にも種数・構成比の数値に軽微な変化が生じているが、前報で述べた考察を修正する必要はないと考えている。

謝辞

標本の一部を同定してくださった秋山秀雄氏(横浜市)、久松定智博士(人間環境大学)、滝沢春雄博士(下諏訪町)、吉富博之博士(愛媛大学)、誤同定あるいは誤同定の訂正をお知らせくださった堀繁久氏(北海道博物館)および中谷正彦氏(釧路市)、筆者らの誤同定の可能性を指摘してくださった柏崎昭氏(札幌市)および高井泰氏(関市)に心からのお礼を申しあげる。

参考文献

合地信生・工藤岳・富沢昌章・島田明英・堀繁久, 1994, 「ポロヌプリ周辺」北海道環境科学研究センター(編)『「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書. 道北圏域 17 地域・道央圏域 2 地域』: 170-183. 北海道環境科学研究センター,

- 札幌.
- 秋山秀雄, 2000, 「日本産カミキリモドキ科図解解説」『神奈川虫報』(132): 1-53.
- 荒木哲, 1995, 「キベリマルヒサゴコムツキを本州北端で採集」『月刊むし』(287): 37-38.
- 大木裕・内藤準哉・松本忠之・芳賀馨, 2022, 「枝幸郡枝幸町周辺の甲虫相 その1」『枝幸研究』(13): 9-44.
- 大木裕・内藤準哉・松本忠之・芳賀馨, 2023, 「枝幸郡枝幸町周辺の甲虫相 その2」『枝幸研究』(14): 11-42.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 1985, 『原色日本甲虫図鑑. III』. 保育社, 大阪.
- 林匡夫・森本桂・木本新作編著, 1984, 『原色日本甲虫図鑑. IV』. 保育社, 大阪.
- 平野幸彦・秋山秀雄・松原豊・守屋博文・西川正明・野津裕・高橋和弘・滝沢春雄・露木繁雄・渡辺崇, 2018, 「コウチュウ目 Coleoptera」西川正明・苅部治紀・渡辺恭平(編)『神奈川県昆虫誌 2018. II』: 227-639. 神奈川昆虫談話会, 小田原.
- 中谷正彦, 2023, 「キタエンマハバビロガムシの採集記録について」『道東の昆虫と自然』(9): 24.
- 中谷正彦・平間裕介・小杉時規, 2006, 「北オホーツク道立自然公園の昆虫」『Sylvicola』24: 1-70.
- 宮武睦夫, 1989, 「日本産コキノコムシ科」『昆虫と自然』24(1): 8-15.
- Hayashi M, Yoshitomi H, 2015, 「Endophalic structure of the genus *Zaitzeviaria* Nomura (Coleoptera, Elmidae, Elminae), with review of Japanese species」『*Elytra, Tokyo, N. S.*』5: 67-96.
- Hoshina H, 2012, 「Review of the tribes Sogdini and Leiodini from Japan and North Chishima Islands. Part II. Genera *Hydnobius* and *Leiodes* (Coleoptera: Leiodidae)」『*Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae*』52 (Supplement 1): 1-168.
- Шатровский А Г, 1989, 「Сем. Hydrophilidae -Водолюбы」『Определитель Насекомых Дальнего Востока СССР. Том III. Часть 1』: 264-293. Наука, Ленинград.
- Suzumura A L, 2020, 「New record of *Sphaeridium lunatum* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Hokkaido, Northern Japan」『*Elytra, Tokyo, N. S.*』10: 343-347.
- Suzumura A L, Kawauchiya R, Ôhara M, Inari N, Kobayashi N, 2022, 「Records of the supralittoral species of the genus *Cercyon Leach* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Hokkaido, Japan」『*Elytra, Tokyo, N. S.*』12: 79-113.
- Švihla V, 1999. 「On the taxonomy and nomenclature of the Palaearctic Oedemeridae (Coleoptera)」『*Acta Soc. Zool. Bohem.*』63: 379-385.
- Yoshitomi H, 2005, 「Systematic revision of the Family Scirtidae of Japan, with phylogeny, morphology and bionomics (Insecta: Coleoptera, Scirtoidea)」『*Jpn. J. syst. Ent. Monographic Series*』(3): 1-212.